

農作物技術情報 第4号の要約

平成22年 6月29日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 水稲の生育は平年並み、茎数の増加は遅れ気味。 茎数が不足しているところでは、分けつを促す浅水管理を継続し、茎数を確保できたら速やかに中干しを実施して根の健全化をはかる。 幼穂形成期頃から徐々に深水管理を開始して冷害回避をはかる。 斑点米カメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔や転作牧草等でイネ科植物が出穂しないよう管理を徹底する。</p>
畑作物	<p>生育状況: 【小麦】成熟期はやや遅れたが刈取間近。【大豆】生育は順調。 小麦: 子実水分を確認し、適期刈り取りに努める。また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意。 大豆: 中耕は初期除草剤(土壌処理剤)の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから実施。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果がある。培土の高さは収穫の邪魔にならないよう一定に。</p>
野菜	<p>生育状況: 【早熟作型のきゅうり】天候不順により出荷量が少ない。【雨よけトマト】収穫開始は例年より1週間程度遅れ。【ピーマン】生育は概ね順調。【露地きゅうり】【露地ピーマン】定植後の天候不順により活着が遅れたほ場が多くみられたが、現在は回復傾向。 【雨よけほうれんそう】乾燥による萎れなどが見られるが概ね良好。【レタス】【キャベツ】定植後の乾燥による生育遅れも見られたが、現在は回復傾向。</p> <p>果菜類 【雨よけトマト】【雨よけピーマン】生育のバランスを保つため適切なかん水、施肥に努める。灰色かび病の発生がみられるので、換気を心がける。 【露地きゅうり】整枝、摘葉により受光体勢を良好に保つ。斑点性病害を対象とした予防散布に努める。</p> <p>葉茎菜類 【雨よけほうれんそう】生育中かん水も含めて高温対策を十分講じ、生育停滞を防ぐ。 【キャベツ】害虫の発生に注意が必要。【レタス】適期収穫により品質の低下を防ぐ。</p>
花き	<p>生育状況: 【りんどう】生育量は回復傾向にあるが、花芽分化は平年より一週間程度遅れ。【8月咲小ぎく】草丈等回復傾向にあるが圃場による生育差が見られる。 りんどう: 天候に応じた排水対策、あるいは、畦間かん水等の圃場管理により生育の確保に努める。病害虫防除は、葉枯病、褐斑病の予防散布、ハダニ類、アザミウマ類の適期防除を徹底。 小ぎく: 白さび病、ハダニ等の病害虫防除を徹底。収穫前に次年度用の健全な母株を選抜する。</p>
果樹	<p>生育状況: 【りんご】果実生育は回復傾向。【ぶどう】開花は概ね平年並み。 りんご: 回復傾向ではあるが、生育の遅れから小玉果が懸念されるため、早めの摘果を。 ぶどう: 結実後の管理を徹底し、高品質果実生産を図る。</p>
畜産	<p>生育状況: 【オーチャードグラス】【飼料用トウモロコシ】生育は平年並。 牧草: 2番草は、1番草収穫から40~55日を目安に早めに収穫。根の高温障害を防ぐため、刈取の高さは10~15cm。時期を逃さずエゾノギシギシを防除。 飼料用トウモロコシ: クマの食害を防止するため、出穂前の7月下旬~8月上旬前に電気牧柵を設置。下草の処理など漏電の防止。トリップ柵の設置は、より効果を高める。 口蹄疫: 牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養されている農家では、衛生対策を継続して励行。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成22年7月29日発行の予定です

農作物技術情報 第4号 水稻

発行日 平成22年 6月29日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- 6月25日現在の水稻の生育は平年並み、茎数の増加は遅れ気味です。
- 茎数が不足しているところでは、分けつを促す浅水管理を継続し、目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施して根の健全化を図りましょう。
- 幼穂形成期頃からは徐々に深水管理を開始して、冷害回避のための水管理を徹底しましょう。
- 斑点米を発生させるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔や転作牧草等においてイネ科植物が出穂しないよう管理を徹底しましょう。

1 生育概況

6月25日に各農業改良普及センターが実施した水稻の一斉生育調査(24カ所、延べ40品種)の結果、県全体で草丈は平年より4.7cm長い42.0cm、1m²あたりの茎数は平年比85%の380本、葉数は平年並の8.5枚となっており、葉数の進捗からみた生育は平年並みである。葉色は平年より濃く経過している(表1)。

表1 平成22年生育診断ほの地域別集計表(6月25日現在) 各農業改良普及センター調べ

地帯名	草丈			茎数			葉数			葉色値		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/m ²)	平年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (SPAD値)	平年 (SPAD値)	平年差 (SPAD値)
北上川上流	40.4	37.3	3.1	328	422	78	8.0	8.2	-0.2	41.5	41.1	0.4
北上川下流	43.2	37.7	5.5	402	457	88	8.8	8.7	0.1	43.6	41.0	2.6
東 部	37.2	33.3	3.9	355	395	90	8.7	8.3	0.4	41.2	40.3	0.9
北 部	37.5	35.7	1.8	360	449	80	7.9	7.4	0.5	39.7	35.4	4.3
全 県	42.0	37.3	4.7	380	446	85	8.5	8.5	0.0	42.8	40.7	2.1

注：平年値は原則として平成17年～21年までの5か年の平均値を用いた。

表2 平成22年生育診断ほの品種別集計表(6月25日現在) 各農業改良普及センター調べ

品種名	草丈			茎数			葉数			葉色値		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/m ²)	平年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (SPAD値)	平年 (SPAD値)	平年差 (SPAD値)
いわてっこ	38.0	35.8	2.2	325	413	79	7.7	7.4	0.3	38.7	36.0	2.7
あきたこまち	39.0	34.8	4.2	348	383	91	8.4	8.3	0.1	42.5	41.3	1.2
どんぴしゃり	41.9	37.3	4.6	367	413	89	8.6	8.6	0.0	42.0	39.8	2.2
ひとめぼれ	43.0	37.3	5.7	408	486	84	9.0	8.9	0.1	43.9	41.9	2.0

注：平年値は原則として平成17年～21年までの5か年の平均値を用いた。

2 浅水管理の継続で分けつ促進（茎数がまだ不足している圃場）

平年に比べ茎数の増加はやや遅れているものの、目標となる茎数（目標とする穂数とほぼ同数）を確保した圃場も多くみられます。

茎数が不足している圃場では、浅水管理を継続し、分けつの発生を促しましょう。

3 中干しの徹底で根の健全化（茎数を確保した圃場）

目標となる茎数に達したところでは落水し、中干しを実施しましょう。

中干しの効果

- ◇ 土壌の還元化をやわらげる→根の伸長促進・健全化
- ◇ 無効分けつの発生を抑える
- ◇ 地耐力の向上→秋作業の容易化

- 中干しの期間は7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じて、軽く踏んで足跡の付く程度を目安とします。
- 中干しと同時に溝切りを行いましょう。排水を容易にし、収穫時の地耐力を高めるのに役立ちます。
- 中干し後、一度に深水にすると酸素不足となり根に障害が出ることもあるので、中干し直後は間断かんがいとし、その後常時湛水としてください。

4 冷害回避のための水管理

仙台管区气象台が6月24日に発表した東北地方の3か月予報によると、7月は曇りや雨の日が多く気温は高い見込みですが、平年と同様に一時的なオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響を受ける見込みです。

図1を参考にして、気象条件や生育ステージにあわせた冷害回避のための水管理を徹底してください。

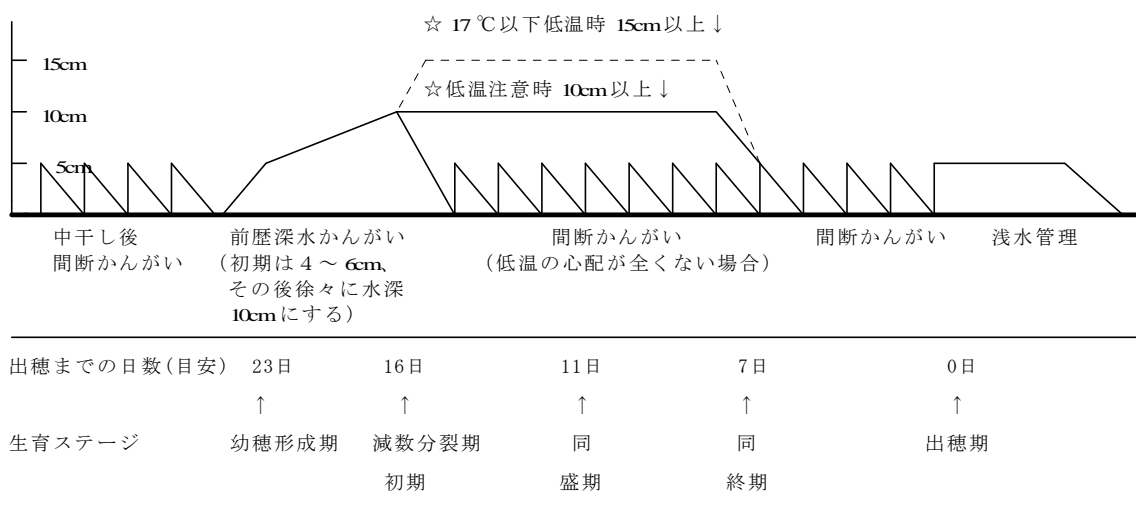


図1 中干し後の水管理の模式図

■用水の供給体制の確認

土地改良区等と連携の上、用水の供給体制についてあらかじめ確認してください。

■ 幼穂形成期前後（前歴深水かんがい）

現在の生育は平年並であり、幼穂形成期も平年並と予測されます。

幼穂形成期の数日前から入水して幼穂形成期には4～6 cmの深水にします（前歴深水かんがい）。幼穂を保護することで小孢子（花粉のもと）の分化が促進され、障害不稔を軽減できます。

※ 平年の幼穂形成期

いわてっこ：7月10日頃、 あきたこまち・ひとめぼれ：7月15日頃

■ 減数分裂期前後（深水管理の実施）

少しでも低温が予想される場合は、幼穂形成期の深水管理に引き続き、1.0 cm以上の水深を確保してください。

1.7℃以下の低温が予想される場合は、1.5 cm以上の深水としてください。

5 追肥

葉色は平年に比べ濃く経過しています。追肥判断のため葉色の変化に注意が必要です。

良食味米生産の観点から、品種、気象・生育状況をみきわめて、適期に適量を施用しましょう。詳しくは各地域で発行される技術情報等を参考にしてください。

6 斑点米カメムシ類の防除

県病害虫防除所が実施した6月中旬の調査によれば、本年も畦畔や転作牧草のイネ科植物で斑点米カメムシ類が確認されています。

以下により、カメムシ類の増殖源となる畦畔等のイネ科植物の管理を徹底してください。

なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する計画がある場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めてください。

■ 畦畔や転作牧草等のイネ科植物が発生源

斑点米の発生原因となるカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）は、畦畔や転作牧草等のイネ科植物で繁殖します。

■ 水稻出穂の15～10日前までに地域一斉に草刈りを実施

畦畔雑草は水稻が出穂する15～10日前までに刈り取ってください。

草刈りは、個別にバラバラな時期ではなく、地域で一斉に実施してください。

■ 水田内の雑草も増殖源となる

水田内にノビエ、イヌホタルイやシズイなどの雑草が多発している圃場では、これらの雑草がカメムシの発生源となりますので、水田内の除草に努めてください。



図2 アカスジカスミカメ成虫



図3 畦畔雑草管理は地域一斉に

7 いもち病防除

(1) 葉いもち

いもち病は気象条件で急激に広まるので、圃場の観察と早期防除を徹底してください。

圃場をよく観察し、発生を確認したら、葉いもち予防粒剤（箱施用剤、水面・投げ込み施用剤）施用の有無にかかわらず、直ちに茎葉散布を実施しましょう。

(2) 穂いもち

穂いもち対象の予防粒剤を散布する場合は、次の点に留意してください。

- ・ 水稻の生育状況に注意する（散布時期を失しない）
- ・ 圃場をよく見回り、葉いもちが発生していたら茎葉散布してから粒剤施用する。
- ・ ストロビルリン系薬剤は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田では使用しない。

8 農薬の安全使用

平成18年にポジティブリスト制が施行され、残留農薬基準の規制が強化されています。

基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。農薬の使用基準を遵守するとともに、これまで以上に周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

9 異品種の混入防止

現在、全国的に異品種の混入が問題で、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになってきました。

異品種が混入した米を出荷すると、産地のイメージを損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には抜き取るなど、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

次号は7月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 平成22年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

小麦：間もなく収穫適期を迎え、刈り取りが始まります。子実水分を確認し、適期刈り取りに努めましょう！また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。

大豆：中耕は初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。収穫時に土を噛み込まないよう培土の高さは一定になるよう作業を行いましょう。

1 小麦

(1) 収穫作業前の事前準備

- ア コンバインや乾燥機などの点検整備や清掃を事前に行う。
- イ カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認する。
- ウ 品質低下を防ぐために、事前に倒伏圃場や赤かび病の発生状況を確認し、どの順番で刈り取りを行うかチェックしておく。

(2) 収穫作業の注意点

- ア 成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈り取りを行う。
- イ 曇りや雨の日は子実水分の低下が滞るが、晴天には1日に2～2.5%程度低下する。
- ウ 普通型コンバインでは35%前後から収穫ができる。

※ 高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が良くなり、水分の高い小麦を収穫できるものもあります。しかし水分が高いと、収穫時に粒がつぶれたり、乾燥時に退色粒が発生したりする危険性があります。やむを得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、丁寧な作業を行い、刈り取り後はできるだけはやく（1時間以内）乾燥作業に入りましょう。

(3) 乾燥について

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し異臭麦や熱損粒が発生します。刈り取り後はできるだけはやく乾燥機へ搬入しましょう。

乾燥機の能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行いましょう。

- ア 送風温度は子実水分が高いほど低く設定する。子実水分35～30%で送風温度40℃以下、子実水分30%以下で送風温度45℃以下とする。
- イ 高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する可能性がある。
- ウ 水分が高いほどテンパリング時間は短く設定する。（子実水分30%前後では1時間以内）
- エ 乾燥機への張り込みは循環型乾燥機では容量の7割程度、平型では堆積の高さを20cm程度に抑える。
- オ ビンやサイロに一時貯留する際は、水分が17～18%程度になるまで1次乾燥してから貯留する。3～4日以内には仕上げ乾燥を行う。仕上がり目標は12.5%以下とする。

2 大豆

(1) 概況

今年の大豆の播種作業は順調に行われました。出芽揃いも良く生育は概ね順調です。

(2) 中耕・培土

- ・ 中耕培土は、大豆の3葉期に実施することが一般的ですが、初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行いましょう。
- ・ 培土は収穫時に土を噛み込まないように高さを揃え、根本まで土がかかるように行いましょう。

〈中耕培土の効果〉

- ア 雑草防除
- イ 倒伏防止
- ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる
- エ 発根を促進し、根群を発達させる
- オ 土壌の排水を良好にする

(3) 大豆バサグラン液剤

「大豆バサグラン液剤」は、大豆生育期に処理できる広葉雑草対象の除草剤ですが、利用の際にはいくつか留意する点があります。

- ・ 大豆の品種によっては薬害を大きく受ける場合があります。
- ・ 広葉雑草の光合成を阻害する作用を持っています。晴天が続くときに散布することで、効果的に使用することができます。
- ・ 水稲用のバサグラン液剤は使用できません。必ず大豆バサグラン液剤を使用してください。
- ・ アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科には効果が劣るので、これら雑草の優先する圃場では使用を避けます。
- ・ 剤の特性をよく理解し、適正に使用してください。

★除草剤は、発生する草種を確認し、効果のある剤を遅れずに散布しましょう！

次号は7月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農作物技術情報 第4号 野菜

発行日 平成22年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆施設果菜類 換気の徹底、適切な肥培管理・水分管理と病害虫防除を！
- ◆露地きゅうり 生育に応じた整枝・摘葉管理と病害虫防除を！
- ◆雨よけほうれんそう 天候の変化に応じた適切な管理を！
- ◆露地葉茎菜類 病害虫防除の徹底と計画的な作業により良品出荷を！

1 生育概況

- (1) 施設果菜類は順次収穫が行われています。早熟作型のきゅうりは天候不順により出荷量が少なく、うどんこ病等の病害の発生がみられています。雨よけトマトの収穫開始は例年より1週間程度遅れたほか、灰色かび病の発生がみられています。ピーマンの生育は概ね順調ですが、灰色かび病や疫病の発生がみられています。
- (2) 露地果菜類の定植は終了しました。露地きゅうりや露地ピーマンは定植後の天候不順により活着が遅れたほ場が多くみられましたが、現在は回復傾向にあります。
- (3) ほうれんそうの生育は概ね良好ですが、圃場の乾燥による萎れや葉先枯れ等も見られています。タネバエやケナガコナダニの食害が見られるほか、各地で萎凋病等の土壌病害の発生も見られ始めています。
- (4) 県北部でもキャベツの収穫が開始されました。生育は回復傾向で、病害虫の発生は比較的少なくなっています。平場地帯のレタスの出荷は終了し、県北部、高冷地からの出荷も始まっています。ナモグリバエの発生はやや多く、すそ枯病や灰色かび病の発生も見られています。

2 技術対策

(1) ハウス果菜類の管理

ア 雨よけトマト

雨よけ栽培では、収穫開始時期を迎え草勢のバランスを崩しやすい時期に入ります。着果量や生長点付近の状態(生長点の大きさ、葉色、葉の巻き具合、茎の太さ)を確認しながら、適切な追肥やかん水により草勢を維持することがポイントになります。

特に、高温乾燥が続くと尻腐果の発生が目立ってきますので、今後、中段以降の発生を未然に防ぐためにかん水管理に努めます。

一方、梅雨期に入り降雨とともに灰色かび病や葉かび病の発生が多くなってきますので、サイドビニールやツマソーを開放するなどして十分に換気し、かん水は晴れた日の午前中に行うようにして、できるだけハウス内の湿度を高めないようにします。また、薬剤防除は灰色かび病や葉かび病、アザミウマ類、アブラムシ類の防除を基本とした薬剤を選定し適期防除に努めます。

近年、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種の導入が進んでいますが、Cf-9 品種を侵す葉かび病の発生が、大玉系品種やミニトマト品種で確認されています。

このため、葉かび病抵抗性品種であっても、耕種的防除やすずかび病など他病害との同時防除に努めるとともに、Cf-9 品種で葉かび病に類似した症状が確認された場合は、最寄りの指導機関に診断を依頼することをお勧めします。



すずかび病(左)と葉かび病 (右)

イ 雨よけピーマン

4本仕立ての整枝法は、第10分枝まで側枝3～4節摘心、第11分枝以降は2節摘心が基本です。側枝を伸ばして着果数を多くすると草勢が低下しやすくなるので、株の下まで光が当たるように側枝の摘心を行います。

特に「京鈴」は、収穫や整枝を遅れないこと、かん水と追肥は少量多回数を基本に行い、草勢を低下させないよう管理に努めます。

また、雨よけトマトと同様、今後乾燥が続くと尻腐果の発生が目立ってきますので、pFメーターを目安として水管理を行います。

一方、病害は灰色かび病が発生しやすい時期です。雨よけトマト同様こまめに換気を行いハウス内の湿度を高めないようにします。害虫は高温とともにアザミウマ類やハダニ類が多発してきますので、アザミウマ類は花の内部を、ハダニ類は葉の裏側をよく観察し適期防除に努めます。

ウ 夏期高温期の昇温抑制対策

夏期高温に備え遮光幕や塗布型遮光剤を利用した昇温抑制対策の実施を検討しますが、資材の種類により効果の持続性に差があるので考慮して利用してください（下図参照）。

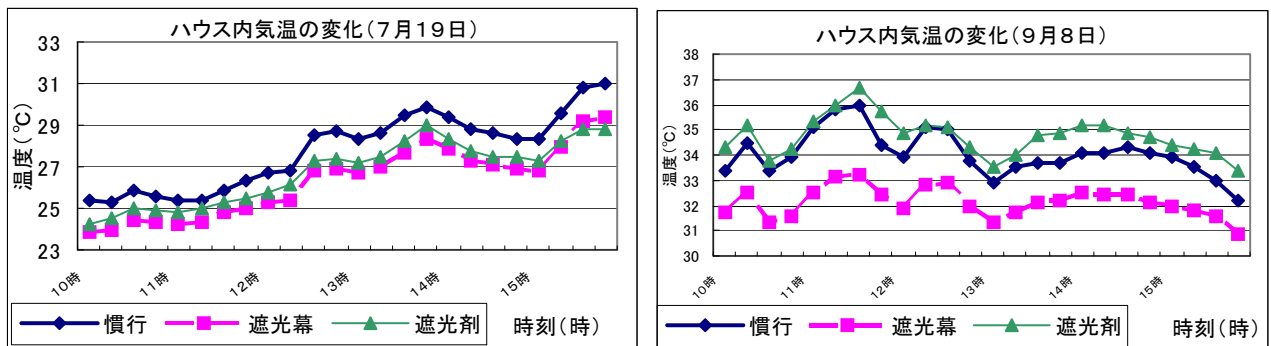


図 遮光幕及び塗布型遮光剤の温度抑制効果(農業改良普及センター実証結果より抜粋)

- 備考) 1. 塗布型遮光剤は平成18年6月19日に吹き付けし、遮光幕は同年6月29日にハウス一面を被覆した。
 2. 遮光幕は長期間にわたり安定して温度抑制効果が高い。一方、塗布型遮光剤は吹き付け1ヶ月間位までの効果は高いが、処理約3ヶ月後には効果はみられなくなった。

(2) 露地きゅうり

本格的な収穫を迎える時期となりました。収穫量に応じた追肥とかん水で草勢を確保します。特に乾燥気味の圃場では、かん水や敷きわらなどで土壌水分の保持を図ります。また、1本仕立ての場合の生育中期～盛期における基本的な整枝、摘葉管理は下表を参考に行います。

ただし、品種や草勢により管理技術は多少異なりますので、あくまでも目安としてください。

表 生育中期～盛期の整枝、摘葉方法（例）

	子づる	孫づる	整枝のポイント	摘葉のポイント	その他
上段	1節摘心	半放任とし、混み合った部分のみ摘心する	1. 親づるは、生育が順調な場合は支柱の肩の部分で止めるが、上段の子づるの発生が悪い場合、発生が緩慢な品種、親づるの心が小さい場合は遅く止める 2. 親づるの摘心後、草勢維持のため放任枝を2～3本残す。作業しやすいように腰～肩の範囲に子づるを張らせる。中段の子づるは収穫後1節残して切り戻す 3. 膝から下の子づる、孫づるは収穫後親節から切り戻す	1. 台木や穂木の子葉は摘除する 2. 病葉や老化葉を優先的に摘除するが、子づる、孫づるの生長点を覆っている葉を株当たり2～3枚/回を目安に除去する 3. 膝から下は摘葉し、通風を良くする 4. 親づるの摘葉は親づるの摘心後1ヶ月間を目安に終了する	放任枝とネット沿いに発生した子づるはテーブナーでしっかり止めるが、それ以外の枝は誘引せずきゅうり全体に光が当たるよう樹を立体的に仕上げる
中段	2節摘心	1節摘心 ただし、草勢が弱い場合は早止めしない			
下段	1節摘心	1節摘心			

※下段：～10節程度。中段：11～20節程度。上段：21節～

2本仕立ての場合は、主枝8～10節から発生する側枝を、1本伸ばします。それ以外の主枝10節までの側枝は1節摘心とし、主枝11節以降は2節摘心または半放任とします。

病害虫防除では、7月はべと病や褐斑病、炭そ病等の斑点性病害の予防に重点をおきます。

なお、斑点性病害は薬剤散布による防除だけでなく、圃場内への蔓延を防ぐため疑わしい病斑が見られたら積極的に摘葉しましょう。

(3) 葉菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

県内では既に萎凋病を中心とした土壌病害の発生が各地で見られていますが、梅雨明けまでは曇雨天が続くことが予想されます。つま面のビニール除去や遮光資材等の利用により、地温を上げない管理を徹底するとともに、遮光のしすぎによる徒長にも注意しましょう。

ほうれんそうの生育には厳しい時期となりますので、各産地で選定している夏播き用の品種を利用して、必要に応じて生育中のかん水も行いましょう。

地上部が萎れる原因は病害によるものだけではありません。高温障害、土壌病害虫等の判断方法は下図を参照してください。

また、圃場内へ雨水が流入したりハウス内が過湿になることがないように、圃場周囲の排水対策を確認しましょう。

この時期はべと病が発生しやすく、べと病に抵抗性のある品種でも発病する場合があります。ハウス内が過湿にならないよう換気に努めるとともに、株間を広くして風通しを良くし、被害株は随時抜き取り処分します。例年発病が多い圃場では、予防散布を徹底しましょう。

根腐病の症状

萎凋病の症状

高温障害の症状

タネバエによる被害

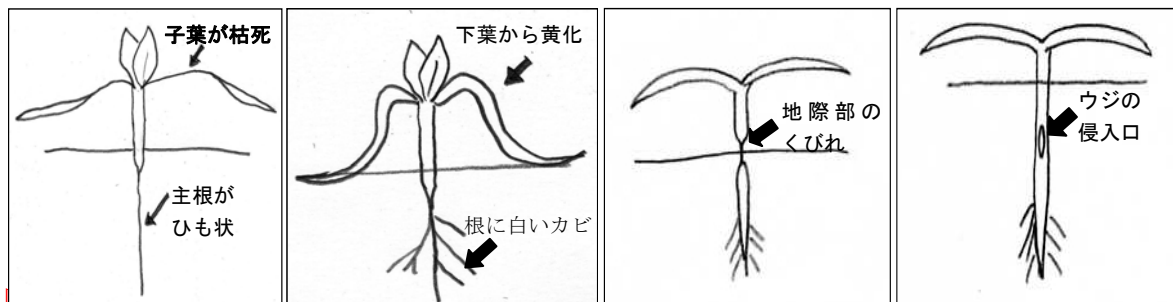


図 ほうれんそう生育初期の萎れの原因の判断方法

イ キャベツ

現在コナガの発生量は少ない傾向ですが、ヨトウガの発生が増えてくる時期を迎えています。定植時の処理剤の利用を徹底するとともに、防除が遅れないように注意しましょう。特にコナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を基本とします。

また、収穫を終了した圃場をそのまま放置すると害虫の発生源となりますので、収穫後は早めに圃場を整理しましょう。

結球期に降雨が続くと株腐病の発生が多くなります。結球開始期から株元にも十分薬液がかかるように薬剤散布を行ってください。圃場の排水対策についても確認しましょう。

ウ レタス

気温の上昇、降水量の増加にともない、腐敗性病害の発生が多くなります。特に大雨が引き金になって、病害が多発する場合がありますので、気象情報などを参考にして、降雨の前後の防除に重点を置きましょう。また、これから定植する作型では、排水の良い圃場を選んで作付けするようにしましょう。

高温期の過剰施肥は変形球や腐敗の発生を招きやすいので、施肥量を控えめにすると共に、適期に収穫して品質の向上に努めましょう。

収穫と定植作業が重なり労力負担が大きくなる時期ですが、適湿時にマルチを張り、早めの定植を心がけましょう。

エ ねぎ

生育に応じた追肥、土寄せにより葉鞘の伸長を促しましょう。特に早出しを狙う作型では、無理に土寄せすることで葉鞘が細くなりすぎないように注意しましょう。今後、気温の上昇、降水量の増加が予想されますので、圃場の排水対策を講じます。

また、大雨直後に土寄せを行うと、病害発生の原因にもなりますので注意してください。

次号は7月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農作物技術情報 第4号 花き

発行日 平成22年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- りんどう 葉枯病、ハダニ類などの病虫害防除を徹底しましょう
- 小ぎく 白さび病、ハダニ等の病虫害防除を徹底しましょう
収穫前に次年度用の健全な母株を選抜しましょう
- 共通 ほ場乾燥が続く場合は早めにかん水しましょう
圃場の排水対策を実施し、湿害を回避しましょう
切り前・選別基準の遵守により、揃った品質で出荷しましょう

1 りんどう

(1) 生育概況

ハウスの半促成栽培の出荷が始まっています。露地栽培では6月の天候回復により生育量は回復傾向にありますが、極早生品種の開花や早生品種の側芽発生期（花芽分化のめやすとなる）が1週間程度の遅れとなっています。

葉枯病は平年より少なめ、ハダニ類は平年並み、リンドウホソハマキは平年よりもやや多めに推移しています。

本年の苗定植は、育苗もおおむね順調に経過し、概ね問題なく終了しています。

(2) 圃場管理

ア ネット上げ

フラワーネットの最上段が草丈の7割程度の位置となるように、こまめに上げて茎の曲がりの発生を防ぎます。また、ネットに葉が引っ掛かり曲がることも多いので、随時圃場の見回りを行い、修正してください。

イ かん水・排水対策

雨が少なく乾燥気味の場合には、極度に乾燥する前に通路等にかん水します。また逆に長雨や集中豪雨で圃場に滞水することで、根に障害が生じ生育不良となることや、上位節間が伸びて品質低下の原因となることがあるので、圃場に滞水しないよう排水対策を施します。

(3) 収穫・調製・出荷

ア 収穫

収穫は頂部の蕾が膨らみ色づいた頃が標準です。ただし、出荷先やバケツなどの輸送形態等により早めの収穫とする場合もありますので、事前に確認し仕向け先に合わせた切り前とします。

収穫は日中の高温となる時間帯をさけ、涼しい朝夕に行います。やむを得ず日中採花する場合は、収穫後直射日光に当たらないようにし、速やかに日陰に運び水揚げを行います。

株の消耗を防ぐため、必ず3本程度の茎を収穫せず残し、残った茎は残花部を折り取って種子が作られることによる消耗を防ぎます。また、残花部の折り取りはアザミウマ類や、アブラムシ類の被害低下へも効果的です。

イ 乾燥

雨天時に収穫した場合や朝露がついている場合は、扇風機や切り花乾燥機を用いて必ず乾燥さ

せませす。濡れたまま結束したり箱詰めしたりすると輸送中の蒸れなどによる品質低下の原因となります。

水を切るため逆さにして振ることは、茎が折れることに加え、花の蜜が花弁や葉などに付着して品質低下の原因となる場合がありますので極力避けます。

ウ 選別

花段数、長さ、太さ、曲がりなどを基準に選別します。出荷規格を遵守し、信頼を落とさないようにします。病害虫の被害があるものは出荷しないことを基本とします。

また、暗い作業場での選別作業は病害虫痕の見落としなど品質の低下につながることに加え、作業者の目が疲れ作業性の低下や疲労が増大することとなります。りんどうの選別は花段数の確認等で目を酷使しています。作業場全体と選別を行う作業台の明るさを十分確保します。

エ 調製・水揚げ

選別調製後、規格別に10本束にして水揚げを行います。

束とする10本の切り前や品質が揃うよう留意します。水揚げが長時間になると輸送中に蒸れることがあるので、極端に長い時間（24時間以上）の水揚げは控えます。

21年度から出荷箱のサイズが、従来に比べ長さが10cm短くなっています。これに伴い標準出荷規格が一部変わっています。極晩生種等の2L規格が長さ85cmとなるので、各地域の目揃会等で規格を確認のうえ出荷してください。

オ 箱詰め

各部会等で決められた方法で箱詰めを行います。輸送中に花束が動いて傷むことがないように確実に固定します。

(4) 病害虫防除

ア 葉枯病

これまでのところ下位葉部分に発生が見られていますが、発生は少なく推移しています。降雨により急激に増加し、中上位葉まで発生することが多いので、定期的に薬剤散布を行い、初期防除に努めます。薬剤散布は降雨前に行うことが理想ですので、気象情報を確認しながら効果的な防除をおこないます。

イ 褐斑病

7月下旬まで重点的な防除を継続します。早生種では収穫時期が近いので、葉の汚れに注意し、ダコニール1000+展着剤または、ストロビーフロアブルを使用します。葉枯病との同時防除とする場合はダコニール1000を選択します。

ウ アザミウマ類

蕾がふくらみ着色が始まる頃から蕾に侵入し、花弁を吸汁する被害が見られます。蕾の中にはいると薬剤がかからず、大量に増殖して被害が大きくなりますので、侵入を防ぐよう寄生前の予防に努めます。

アザミウマ類は雑草を含むあらゆる植物に寄生するので、周辺の作物の防除、雑草の処理を必ず行ってください。

また、着蕾期前にシルバーの反射テープを支柱上部に張ることで、アザミウマの発生が大幅に減らすことが可能な現地事例があります。さらに、残花茎でのアザミウマの増殖を抑えるために、開花収穫後の残花茎は折り取り処分することが効果的となります。



写真1 褐斑病



写真2
反射テープによるアザミウマ防除

エ ハダニ類

発生量は少なめですが、上位葉への寄生がみられますので注意して観察してください。また、高温・乾燥により発生が多くなりますので、発生密度が高くなる前に薬剤散布を行ってください。薬剤散布は散布量を十分に、葉の裏側を洗うように散布すると散布むらも無くなり効果が高まります。

なお、ダニ剤の使用においては同系薬剤の1年1回使用を基本に、抵抗性の発現を避けてください。

オ リンドウホソハマキ

大きな被害はみられませんが、だらだらと発生が続いています。第2世代の発生が7月中～下旬に予想されますので、被害が散見される圃場では防除を徹底してください



写真3
ホソハマキの茎への潜入痕

2 小ぎく

(1) 生育概況

5月までの低温による草丈不足は回復傾向にあるものの、圃場により生育差がみられます。白さび病、ハダニ類、アブラムシ、ナモグリバエの発生が確認されていますが、各地からの情報では、平年並みからやや少なめの発生量となっています。今後の気象によっては、増加することも考えられますので注意して観察してください。

(2) 土壌水分管理

雨が少なく圃場が乾燥すると側枝の伸長不良や開花遅れの原因となるので、極度に乾燥する前に水を与えます。また逆に梅雨期の長雨や夏秋期の集中豪雨などに備え、排水溝の整備を行います。キク類の根は滞水に弱いので特に注意が必要です。

(3) 下葉取り

蕾が見える頃になったら、地際から25cm程度の葉を掻き落とし、通風をよくすることで、病害発生の抑制、収穫作業の効率化をはかります。

(4) 親株の選抜

次年度用苗の採穂に使用する親株は、収穫後では形質や病害感染が確認できないので、収穫が始まる前に次の点に留意して親株の選抜を行い、目印を付けておき、収穫後に親株とします。

ア 草丈が十分に伸び、草姿が優れる

イ 開花期が目的の時期に合う

ウ 病虫害（特にウイルス、ウイロイド）に侵されていない

エ 株の生育・充実状態が揃っている

なお、わい化病やキクえそ病に感染した株や、発生株周辺の感染のおそれのある株は必ず抜き捨てて圃場に残さないことが被害拡大防止の基本です。

(5) 収穫・調製

りんどうと同様に、切り前や作業時の環境に留意して収穫・調製を行います。

小ぎくでは、花卉が着色して爪立ちとなった頃が収穫適期となりますが、出荷時期や出荷先、品種によって異なる場合もあるので、仕向け先にあわせた適正な切り前を確認し、調製します。

(6) 病虫害防除

今年は、白さび病、ハダニ類、ナモグリバエなどの病虫害が発生しています。発生前の予防、発生初期の防除を心がけてください。

ミカンキイロアザミウマ等が媒介するキクえそ病（TSWVによる）などのウイルス病が見られるので、アザミウマ類等の害虫防除を徹底します。圃場内外の雑草が各種害虫の増殖源となるので、雑草防除も必ず行ってください。

(7) 病害株の抜き取り

キクに発生するわい化病（キクわい化ウイルス）、キクえそ病（TSWV）に感染した株は薬剤散布などで治療ができないことから、健全株への伝染源や、母株とすることでの翌年の栽培への発病株の広がり等の原因となるため、見つけしだい抜き捨てることを徹底してください。

3 その他花き

(1) トルコギキョウ

生育に応じてかん水を控えて締まった草姿を目指します。また施設の温度、肥培等の管理を適正に行い、生育量確保を図るとともに、生育障害発生を抑制します。

(2) アルストロメリア

秋の開花を充実するためには夏期間は収穫を休み、株充実のため花蕾摘除、葉芽・枯れ茎の整理を行います。品種によって量は異なりますが、夏期は肥料・かん水が過剰にならないよう少なめに管理し、地温を下げるために、遮光や地冷を行います。

また、株養成中にオンシツコナジラムが発生することがあるので、適宜防除を行います。

(3) ユリ類

抑制作型では遮光を行って地温低下を図りますが、梅雨期等日照が少ない時期はできるだけ日照を確保するよう遮光率の低いものに換えたり、遮光資材をはずしたりすることも必要です。

(4) ストック

7月下旬が無加温作型のは種期です。育苗管理では、施設の気温上昇を抑制すること、苗の生育を揃えるため均一で適切な水分状態を保つことがポイントです。

気温上昇抑制のためには施設を遮光資材で覆うほか、育苗箱を直管やブロックなどで作ったベンチ等に置き、風通しをよくすることや、周辺に散水することなども有効です。ただし遮光資材は育苗後半や曇天時には、除去して徒長を防ぎます。

かん水は、一時に多量にかん水すると胚軸の徒長を招くので、少量ずつ回数多く行います。

八重鑑別は播種後3～5日の発芽揃い時、子葉展開時、定植直前の3回に分けて行います。

(5) パンジー

秋出荷作型では7月下旬以降が種期となります。パンジーの発芽は高温で抑制されるので、ストックと同様に育苗環境整備、冷蔵庫の利用等により成苗率の向上、徒長防止を目標とします。遮光は適宜調節し、日照を確保してください。

次号は7月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

発行日 平成22年 6月29日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんごは、翌年の花芽形成を促進するため、適期栽培管理を進めましょう！
- ◆ ぶどうは、結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進めましょう。

りんご

1 生育状況

県内の定点観測調査結果によると、開花期間中は、前半は気温が低く、後半が好天となったため、県南部の一部で中心花の結実率が低い地域も見られましたが、平年の着果量は確保されたと思われます。

果実の肥大（横径）は、開花期が平年より遅れたため、調査開始時点（6月1日）では平年の60%程度でしたが、6月以降は好天に恵まれ、6月21日時点の県平均ではいずれの品種も平年比の90%まで回復してきています（表1）。

表1 県内確定点ほ場における果実肥大(横径)状況(6月21日現在)

単位:mm

市町村	地区	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
		本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		36.5	41.4	37.6	88	97	37.0	42.1	38.8	88	95	32.5	38.6	35.3	84	92
岩手町	一方井	28.6	34.8	33.0	82	87	30.6	35.0	34.0	87	90	28.7	32.8	30.8	88	93
盛岡市	三ツ割	34.5	40.0	37.0	86	93	33.7	39.7	38.3	85	88	30.1	35.6	34.0	85	89
紫波町	長岡	33.0	40.4	39.2	82	84	36.5	41.3	40.0	88	91	32.8	39.0	34.4	84	95
花巻市	中根子	37.5	45.3	37.4	83	100	39.0	45.7	41.3	85	94	33.4	40.9	34.7	82	96
北上市	立花	36.9	49.5	41.1	75	90	35.0	48.0	43.7	73	80	31.3	41.0	37.7	76	83
奥州市	前沢区稲置	38.0	47.8	41.4	79	92	39.5	43.3	42.3	91	93	37.0	41.4	37.6	89	98
	江刺区伊手	33.4	39.0	35.8	86	93	32.2	39.1	37.0	82	87	27.8	33.9	23.7	82	117
一関市	花泉町金沢	33.2	43.1	38.7	77	86	35.8	43.0	40.3	83	89	30.1	38.0	34.2	79	88
	大東町大原	33.7	40.1	36.6	84	92	32.4	40.5	37.7	80	86	30.5	39.5	33.3	77	92
陸前高田市	米崎	31.5	43.0	38.8	73	81	32.3	39.7	38.1	81	85	27.0	36.6	34.9	74	77
宮古市	崎山	26.2	37.3	35.1	70	75	27.5	37.7	37.4	73	74	26.2	36.5	33.4	72	78
岩泉町	乙茂	28.7	36.4	35.2	79	82	30.9	39.8	34.6	78	89	27.0	39.3	32.4	69	83
洋野町	大野下長根	26.6	31.0	28.7	86	93	25.7	30.5	29.2	84	88	27.8	28.2	26.7	99	104
軽米町	高家	29.5	33.0	32.8	89	90	31.0	29.9	34.6	104	90	26.7	29.0	28.9	92	92
二戸市	釜沢	30.0	34.5	35.3	87	85	29.6	32.9	36.4	90	81	26.6	31.7	31.5	84	84
県平均(参考)		32.1	39.7	36.4	81	88	32.8	39.1	37.7	84	87	29.5	36.2	32.5	82	91

2 花芽分化と管理

7月に入ると、りんごは翌年の花芽分化が始まります（表2）。着果過多や日照不足、高温乾燥などが花芽形成を阻害する要因になりますので、[1] 早期適正着果、[2] 徒長枝の整理などによる日照条件の改善、[3] 防除による健全な葉の維持、[4] 適正な土壌水分管理、に努めましょう。

(1) りんごの果実は、摘果作業が遅れると小玉果となる可能性が高くなります。表3の摘果強度に留意して、仕上げ摘果および着果量の見直しを進めてください。結実量の多い園地や樹は、特に摘果を急ぎましょう。

(2) 摘果のポイント

ア 三角実や扁平果など果形の悪い果実、病虫害果、さびなどの傷害果の摘果。

イ 「ふじ」で果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します（図1）。

ウ 「ふじ」では、途中で肥大の止まる果実が出てくるので、随時見直しを行います。

表2 主要品種の花芽分化開始時期

時期	7月上	7月中	7月下
品種名	王林		
	陸奥・つがる		
	ふじ・ジョナ		

表3 主要品種の摘果強度

品種名	摘果強度	
	わい性樹	
紅玉	4~5頂芽1果	
ふじ、つがる、王林、さんさ、千秋	5~6	〃
ジョナゴールド、陸奥、北斗	6~7	〃

斜形率15%以上の果実の残存率

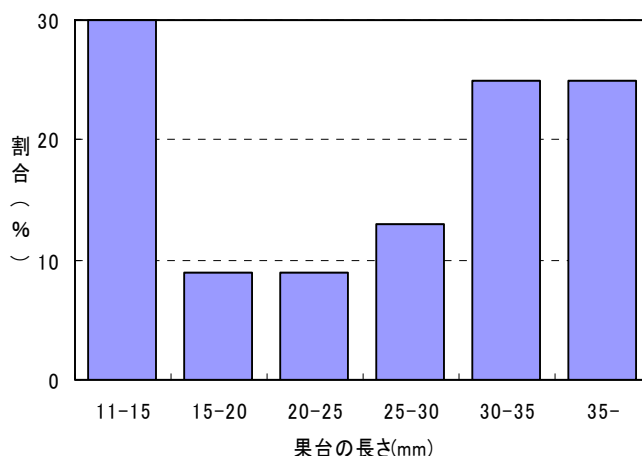


図1 枝長5~25cmの果そうに結実させた「ふじ」の果台の長さ

(3) 土壌水分管理

りんごの樹体にとって、土壌水分を適正に管理することが果実肥大、花芽の確保など健全な樹体の維持に有効です。

ア 乾燥対策

今後、夏季が高温、干ばつで経過する場合は、養水分の競合を避けるため草生を短く維持し、樹冠下に刈草やわら等でマルチします。また、畑地かんがい施設の整備が進められている地域では、適宜かん水を実施します。

イ 排水対策

降雨が続き、園地内が過湿となる場合、根部が障害を受けて樹勢が衰弱することがあります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

3 樹相診断

樹相診断でりんご樹の栄養状態の良否を判断し、適正な肥培管理に活かしてください。特に「ふじ」の収穫時の果実品質は、今の時期の樹相の良否が大きく影響しますので、樹相診断を積極的に実施しましょう。

岩手県農業研究センターでは、平成21年度研究成果としてりんご「ふじ」わい性台木利用樹の簡便な樹相診断法を報告しています。簡便な樹相診断では、先端新梢の葉枚数を主要な調査項目とし、葉の縦径を補助的な調査項目とします。従来の先端新梢長を測る代わりに先端新梢の葉数を数えることで樹勢の判断が可能です。また、葉の縦径を測ることで葉色の測定に代えることができます。物差しだけで簡単に行えますので、実践してみてください。

表4 「ふじ」わい果樹の簡便な樹相診断基準

調査項目		調査時期	基準値
簡便な診断項目	先端新梢の葉枚数	7月上旬	11～14枚
	葉の縦径		7～8cm
従来の診断項目	先端新梢長		20～30cm
	葉色カラーチャート値		4.5～5.5

(1) 強樹勢の対策

新梢長が長く、葉色も緑色が濃い強樹勢樹については、夏季剪定の実施、冬季剪定時は側枝の間引きを中心として結果枝を多めに残す、施肥量を減じるなどして樹勢を落ち着かせるよう管理します。

(2) 弱樹勢の対策

新梢の伸長が短く、葉色が極端に淡くなるなど弱樹勢樹については、着果量を減らし、冬季剪定で花芽の間引き、延長枝の切り戻し等を積極的に行い、施肥量を増やすなど樹勢の回復を図ります。

表5 「ふじ」わい化樹の樹勢の目安

樹勢	先端新梢の葉枚数 (先端の新梢長)	葉の縦径 (葉色)	新梢停止期	樹相
強勢	17枚以上 (40cm以上)	8cm以上 (カラーチャート5.5以上)	7月中旬以降	栄養成長が盛んで繁茂し、樹幹内部は暗い。
適正	11～14枚 (20～30cm)	7～8cm (カラーチャート4.5～5.5)	6月下旬～ 7月上旬	栄養成長と生殖成長バランスがとれている。
弱勢	10枚以下 (20cm以下)	6.5cm以下 (カラーチャート4以下)	6月中旬以前	栄養成長が弱く、再生産力の弱い樹相。

4 病虫害防除

今後気温が上がり、降雨が続くようになると、斑点落葉病や褐斑病、輪紋病、炭そ病等の感染が増えてきます。また、シンクイムシ類やハダニ類などの害虫も発生してきます。

病虫害防除所の発生予察情報や防除情報を参照し、園地の発生状況をよく観察して、適期防除に努めてください。

ぶどう

1 生育状況（表6）

定点観測地点（紫波町赤沢）の「キャンベル」の調査結果によると、発芽、展葉はやや遅れたものの、6月以降は好天に恵まれたため満開期は6月16日と概ね平年並みとなりました。

新梢長、節数は順調に生育しており、6月25日現在で平年より7～10日程度生育が進んでいる調査結果となっています。一方、房長は概ね平年並みとなっています。

表6 ぶどう(キャンベルス・アーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次		生態			6月25日時点での生育		
		開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)
西暦	元号	開花始	満開期	落花期			
2010	22	6/13	6/16	6/19	119.6	14.7	11.8
平年差・比		-2	-2	-3	123%	117%	96%
前年差・比		8	7	5	98%	97%	83%
2008	20	6/10	6/12	6/19	106.6	13.1	13.1
2009	21	6/5	6/9	6/14	121.7	15.1	14.3
平年(平均)値		6/15	6/18	6/22	97.4	12.6	12.3

2 管理の要点

(1) 摘粒

- ・果粒肥大を促し、裂果や病害の誘発を防ぎ、着色向上など品質確保に不可欠な作業です。

満開後30日以内に終了するのが目標です。

- ・「キャンベル」、「ナイアガラ」、「サニールージュ」は1果房当たり70粒程度とし、二つ折りになる状態を目安に行いますが、縦に1～2列（2列の場合は表側1列と裏側1列）摘粒する方法や段抜きなどの簡便法もあります（図2）。
- ・「紅伊豆」、「ハニーブラック」は1果房当たり30～40粒、「安芸クイーン」は25～30粒とします。最上位に4粒程度着粒させ、下部に行くほど徐々に着粒数を減らし、下端は1粒となるようにします（図3）。

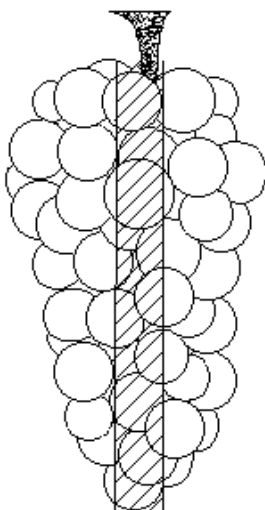


図2 「キャンベル」、「ナイアガラ」等の摘粒方法
（2列抜く場合は、表と裏を1列ずつ抜く）

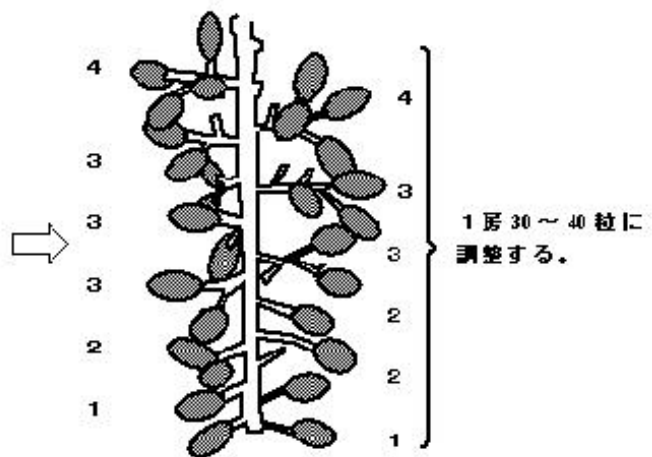


図3 「紅伊豆」の摘粒方法

(2) 袋掛け

- ・時期は7月上旬以降できるだけ早い時期が良く、摘粒などが遅れる場合には、晩腐病の一次感染期を逃さずに防除し、その後、袋かけを行うことが大切です。

(3) 摘房

- ・「キャンベル」では、表7を参考に葉数に応じて着房数を決定してください。最終的には一坪(3.3m²)当たり、新梢数20本、着房数27~30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房当たりに必要な葉数を参照に、葉数に応じて着房数を制限して下さい。
- ・「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」などの大粒種では、1新梢1房が基本です。強い新梢は、1新梢2房着果させておき、着色期前までに1房に摘房していきます。弱い新梢は、早期に1新梢1房とし、同様に着色期をめどに、伸長の程度に合わせて2~3新梢1房に調整していきます(図4)。
- ・着色期以降も着果が多いままだと、着色や糖度上昇が遅れ収穫も遅れる他、樹体の凍寒害の危険が増しますので十分に注意してください。

表7 「キャンベル」の収量構成要素

品種	新梢数 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
		(房/坪)	(房/本数)		
キャンベル	20	27~30	1.35~1.5	1房:12~16枚	2200
				2房:17~22枚	

新梢の勢力	作業時期		
	開花期	着色期	収穫期
強	摘穂 (第3~4花穂)	→	摘房 (第1または第2房)
中	摘穂 (第3~4花穂)	→	摘房 (第1または第2房)
	摘穂 (第3~4花穂)	→	摘房 (第1または第2房)
弱	摘穂 (全部)	→(空枝)	

図4 「紅伊豆」の新梢の強弱と摘穂・摘房時期

3 病虫害防除

- (1) 病虫害の発生状況に合わせて防除を実施します。
- (2) 薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は7月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日~8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成22年6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

牧草・トウモロコシ

- 2番草の刈り取りは適期に、刈り取り高さに気をつけて収穫しましょう。
- エゾノギシギシの防除は、結実前に行いましょう。
- 飼料用トウモロコシ獣害(クマ)対策の準備をしましょう。

1 草地管理(2番草)

(1) 刈り取り時期

2番草の刈り取りは、1番草収穫後から40～55日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、早めの刈り取りに努めます。

(2) 刈り取り高さ

梅雨明け後は、日射量が急に多くなります。刈り取りの高さが極端に低い場合、地面の温度が上がり過ぎ、根が高温障害を受けやすくなります。刈り取りの高さは、10～15cmとしましょう。

(3) 追肥

施肥量は10aあたり窒素成分で5kgを目安とし、刈り取り後はできるだけ早く行います。この時期の尿散布は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に散布しましょう。

2 牧草地の強害雑草対策(エゾノギシギシ)

エゾノギシギシは、種子と根茎により繁殖し、1株あたりの種子数が多く(3～4万粒)、土中の種子も長期間発芽能力を有します。このため、「結実させない」、「根茎を切断しない」ことが重要になります。

薬剤による除草は、チフェンスルフロンメチル剤の茎葉散布が有効です。ギシギシの葉が展葉してから散布します。散布後21日間は採草及び放牧ができないこと、クローバーに薬害が出やすいので、クローバーの占有率が高い圃場での使用を控えることに留意下さい。

農薬を使用する前には必ず「ラベルの確認」をしましょう。

3 飼料用トウモロコシの獣害(クマ)対策

(1) 飼料用トウモロコシのクマ被害防止

近年、県内においてクマによる飼料用トウモロコシの食害が多数発生しており、クマの圃場への侵入対策として電気柵の設置が効果をあげています。バンカーサイロに対する食害対策にも効果があります。

クマは一度味をしめた作物やその場所に対して強く依存するため、近隣圃場での被害発生情報があれば、未然に防止するためにも電気柵を設置することをおすすめします。

(2) 電気柵の設置

電気柵は電気ショックを経験させて、動物の心理的バリアーを構築することにより圃場への侵入を防ぎます。物理的な柵ではないので、使用方法により効果に差が出るので、以下の基本技術の徹底が大切です。

ア. 設置時期

クマはトウモロコシの子実を好んで、圃場内へ侵入します。トウモロコシの出穂前(7月下旬～8月上旬)には設置を完了します。

イ. 漏電の防止

アースを確実に設置します。電気柵は草などに触れて漏電すると効果が劣り侵入の一番の原因となります。こまめに草刈りを行うか、電牧設置場所の周囲に除草剤散布を行いましょう。また、設置後も定期的なチェックを行い、漏電による電圧低下を防止しましょう。

ウ. 設置方法

2段張り、3段張りの事例がありますが、クマは地面を掘って侵入する機会が多いため、1番下の電気柵は地面から20~30cmの位置に設置します。また、圃場のくぼみの部分はポールを増設します。より効果を高める方法として、電気柵の外側にもう1つの電気柵（トリップ柵）を設置する方法があります。トリップ柵はメイン電気柵の外側30~50cm、地面から30cmの高さに1本設置します。（写真参照）

(3) 設置費用

○外周600mの場合（2ha前後）

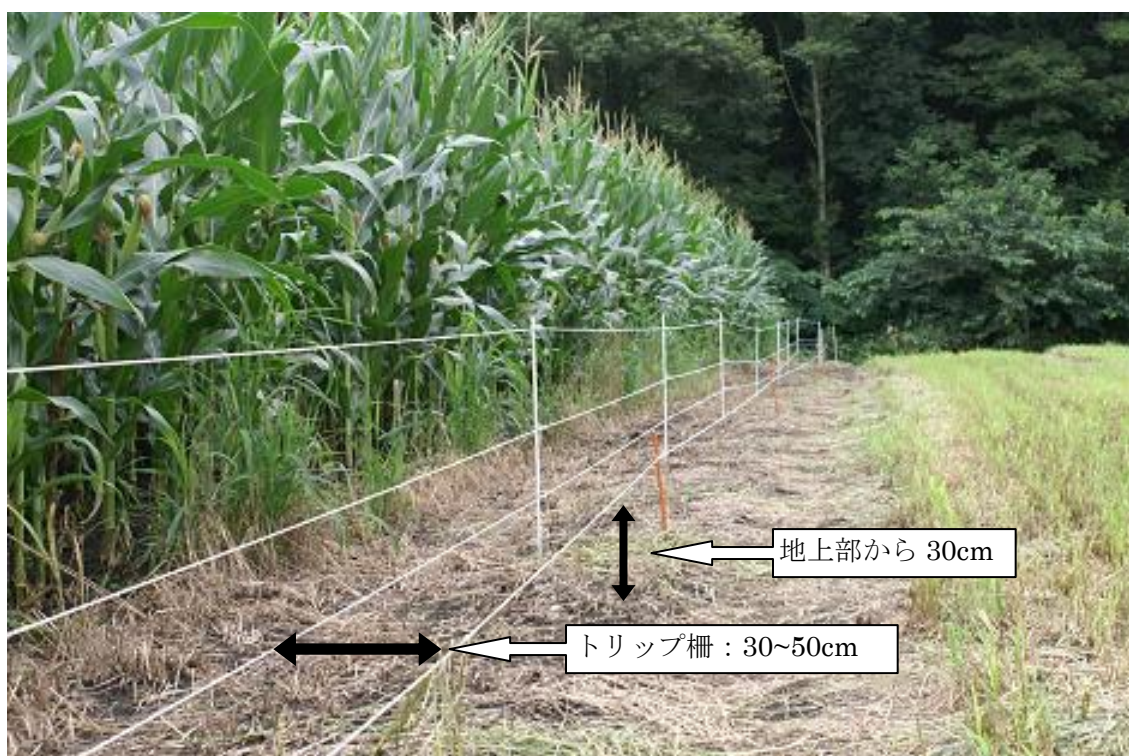
〔電牧器（バッテリー収納型）・ポール・ワイヤー3段、碇子〕で10万円前後

○外周300mの場合（1ha未満）

〔電牧器（電池型）・ポール・ワイヤー3段、碇子〕で6万円前後

支柱等、自己調達可能な資材を使用することで設置コストはさらに低減可能です。

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



4 口蹄疫に対する農場での衛生管理

口蹄疫のウイルスは非常に強い感染力を持っています。牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養されている農家では下記の事項について対策の継続をお願いします。

- (1) 関係者以外の方は農場への立ち入りをなるべく制限しましょう。また、農場への訪問者を記録しておくようにしましょう。
- (2) 畜舎内や畜舎周囲の敷地の消毒に努めましょう。
- (3) 家畜の観察は毎日、丁寧に実施しましょう。
- (4) おかしいと思ったら、すぐに獣医師または最寄りの家畜保健衛生所へ連絡しましょう。

※口蹄疫についての詳しい情報は動物衛生研究所のホームページでご確認いただけます。

<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/FMD/index.html>

次号は7月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日~8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう